

令和 8 年度第 1 回犬山祭伝承保存委員会 次第

と き 令和 8 年 5 月 26 日 (火)
午後 1 時 30 分～3 時 00 分
ところ 犬山市役所 2F 202・203 会議室

次 第

1. あいさつ

2. 報告事項

- (1) 令和 7 年度犬山祭伝承保存委員会関連の主な活動について・・・p.1
- (2) 犬山祭の保存・活用に関する届出等について・・・p.2
- (3) 車山等の不具合等に関する報告・・・p.3～7
- (4) 令和 7 年度修理事業について
 - ①中本町修理事業（水引幕）・・・p.8～13
 - ※別綴資料 1〔非公開〕
 - ②寺内町修理事業（車輪等）・・・p.14～19
 - ※別綴資料 2〔非公開〕

3. 協議事項

- (1) 令和 8 年度修理事業について
 - 中本町修理事業（水引幕）・・・p.20～24
- (2) 令和 9～10 年度修理事業について
 - 名栗町修理事業（水引幕）・・・p.25～42
- (3) 保存修理に関する年次計画について・・・別紙 1〔非公開〕

4. その他

- (1) 令和 8 年度第 2 回委員会の開催日程について・・・別紙 2

令和 8 年度第 1 回犬山祭伝承保存委員会出席者名簿

●日時 令和 8 年 5 月 26 日(火) 13 時 30 分～15 時 00 分

●会場 犬山市役所2F 202-203 会議室

犬山祭伝承保存委員会委員

(敬称略・順不同)

役職名	氏 名		備 考
委員長	鬼頭 秀明	元文化審議会専門委員、中京大学非常勤講師	
委員長 代理	菊池 健策	元文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官	ご欠席
委員	入江 宣子	日本民俗音楽学会会員・民俗芸能学会会員	
委員	藤井 健三	財団法人西陣織物館顧問	
委員	石樽 康彦	日本ロボット学会会員・日本機械学会会員・工学博士	
委員	岩田 敏也	愛知県文化財保護審議会委員、東海工業専門学校講師	
委員	多和田 兼道	(一社) 犬山祭保存会専務理事	
委員	小林 幹和	(一社) 犬山祭保存会参与	
臨時委員	栗谷 和男	令和 6～8 年度事業実施町内(中本町)代表	任期: 中本町修理事業完了迄

オブザーバー

(敬称略)

氏 名		備 考
前田 俊一郎	文化庁参事官(伝統文化・生活文化担当) 民俗文化財部門主任文化財調査官	
小川 裕紀	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室室長補佐	
加藤 葵	愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室主事	

事務局

氏 名		備 考
勝村 偉公朗	犬山市教育長	
加藤 憲夫	犬山市教育委員会教育部長	
渡邊 樹	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長	
小川 正広	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課長補佐	
市野 恵子	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課統括主査	
興石 みゆき	犬山市教育委員会教育部歴史まちづくり課	

■ 令和7年度犬山祭伝承保存委員会関連の主な活動記録(打合せ等は省略)

	犬山祭伝承保存委員会		修理委員会〔中本町〕		修理委員会〔寺内町〕	
	内容	出席者等 (敬称略、順不同、事務局は省略)	内容	出席者等 (敬称略、順不同、事務局は省略)	内容	出席者等 (敬称略、順不同、事務局は省略)
7/4/7	鍛冶屋町車山部材毀損調査	岩田、鍛冶屋町				
7/5/27	第1回犬山祭伝承保存委員会	各委員、文化庁、県			全体会議(車輪復元新調等の詳細仕様の確認)	文化庁、県、鬼頭、岩田、三輪、寺内町
7/6/9			水引幕製作打合せ 下絵、図案、材料の確認	藤井、龍村美術織物		
7/8/3					現車輪解体状況確認、材料検収、詳細仕様確認	岩田、三輪、寺内町、八野大工
7/8/8			刺繍の進捗確認	藤井、龍村美術織物、内田刺繍工房、出原刺繍		
7/12/11			進捗確認	文化庁、鬼頭、藤井、龍村美術織物、出原刺繍、内田刺繍工房		
7/12/18	名栗町水引幕現況確認調査	藤井、名栗町				
8/1/17					車輪製作等進捗確認及び輪締め実施	岩田、三輪、寺内町、八野大工
8/2/3	第2回犬山祭伝承保存委員会	各委員、文化庁、県				
8/2/19			完了検査	藤井、中本町、龍村美術織物		
8/3/8					車輪納品	寺内町、八野大工
8/3/15					完了検査・試し曳き	岩田、寺内町、八野大工
8/3/30	名栗町水引幕現況確認調査	藤井、名栗町				

犬山祭〔国・県指定文化財〕に関する届出等について（前回委員会以降提出分）

1. 現状変更、保存に影響を及ぼす行為等			
①	届出先	愛知県知事	届出者 (一社) 犬山祭保存会
〔内容〕			届出日：R8/3/3
○保存に影響を及ぼす行為			
・中本町まちづくり拠点施設に展示中の車山4輦への下記事項			
①提灯電飾施工（鍛冶屋町壽老台）			
②展示用幕装着（下本町應合子・中本町西王母・名栗町絳英）			
○保存に影響を及ぼす行為の理由			
①中本町まちづくり拠点施設における車山展示の演出の為			
②中本町まちづくり拠点施設展示ホールの照明、設定湿度（60%）等が本物の懸装幕の保存に適さない場合がある為（展示行為自体が保存に適さない場合がある為）			
○着手及び終了の時期			
・着手：令和8年犬山祭後 終了：R9/03/31（予定） ※毎年度更新中			
2. 管理責任者の選任又は解任			
なし			
3. 所有者等の変更			
なし			
4. 所在の場所の変更			
なし			
5. 滅失、き損、亡失等			
なし ※			
6. 修理			
なし			
7. その他			
なし			

犬山祭伝承保存委員会 本町車山車輪等現況確認 記録

日程： 令和8年5月15日（金）13:30～14:30

会場： 本町車山蔵

出席者： 委員

岩田敏也氏

本町

伊神清高氏、兼松潔氏、前田貴史氏、星野義喜氏、安田氏、

青木氏（町会長）、三輪氏（副町会長）

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

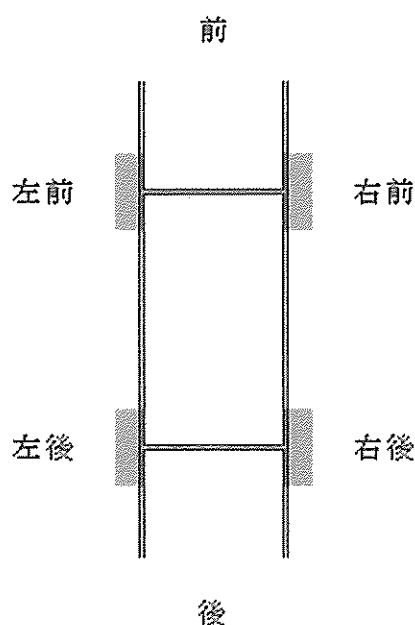
市野恵子

1. 車輪

※「左（右）の車輪」は進行方向を見たときの「左（右）の車輪」を指す

・ 現況

- ・ 全車輪（計4輪）の座板のビス抜けが著しい。抜けてきたビスに引っ掛かり折れていた鼻栓は令和7年度に取替え、鼻栓の折損防止と油よけのために、裏面にグリスホールを加工した鉄製のワッシャーを設置した。令和8年犬山祭後の片付けの際に右前輪の座板（及び座板と溶接された釜金物）が脱落した。他の3輪も同様に座板（及び座板と溶接された釜金物）が脱落しかかっている（本町）。※4輪とも片側の座板と釜金物が溶接されている。
- ・ 左後輪の芯棒包金物（円柱状であり芯棒木口はカバーされていない）もビス抜けにより外れた。木口にはグリスが付着しているが浸透は表面的なものようである。他の3輪の芯棒包金物のビスも一部抜けている。（本町）。
- ・ 舗装された道路上での方向転換時の車輪の上下動、斜め方向の揺れ、衝撃などによってビスに過大な力がかかっている。ビスは昔の鍛冶屋が作っていた釘のほうが柔らかく木と馴染むものであったため振動や衝撃に強かった。過大な力が加わったことが原因で抜けや折れが生じ、結果として座板（及び座板と溶接された釜金物）が脱落した（岩田委員）。



○右前輪

- ▷ 内側ビス：溶接なし・全て脱落
- ▷ 外側ビス：溶接なし・一部脱落
- ▷ その他：内側の座板（+釜金物）が脱落した

○右後輪

- ▷ 内側ビス：溶接なし・大部分脱落（残り1本）
- ▷ 外側ビス：溶接なし・一部脱落
- ▷ その他：内側の座板が脱落しそう

○左前輪

- ▷ 内側ビス：座板に溶接されているがビスは効いていない
- ▷ 外側ビス：溶接なし・一部脱落
- ▷ その他：内側の座板が脱落しそう

○左後輪

- ▷ 内側ビス：溶接なし・大部分脱落
- ▷ 外側ビス：溶接なし・一部脱落
- ▷ その他：芯棒包金物が外れた

・ 対応（案）

- ・ 来年（令和 9 年）の犬山祭までに必要な対応をしたい。何もしないでも何とか運行できるかもしれないが安全は確保したい（本町）。
- ・ これまでと同じ方法で対応してもいずれ同じ結果となる。座板の取り付け方は改善したほうがよい。座板を少し大きくする、ビスを打つ箇所をずらす、ビスの数を増やすなど。但し車輪に負担がかかりすぎる方法はできれば避けたい。修理方法については大工さんから提案をもらって検討する必要がある（岩田委員）。
- ・ まずは当面の運行の安全を確保するための処置を行い、次に将来的な根本修理（復元新調）を検討するのが妥当だろう（岩田委員）。



右前輪（座板＋釜金物の脱落）



右前輪（座板で覆われている部分）



左前輪（見付面にも傷みあり）



左後の芯棒（包金物が外れた状態）

犬山祭伝承保存委員会 寺内町車山唐破風現況確認 記録

日程： 令和 8 年 5 月 15 日（金） 14:30～15:30

会場： 寺内町車山蔵

出席者： 委員

岩田敏也氏

寺内町

三輪征宏氏

事務局（市教育委員会歴史まちづくり課）

市野恵子

1. 唐破風

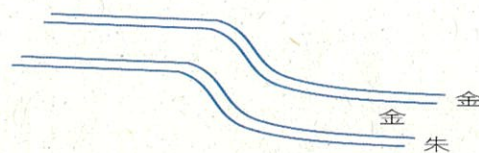
・ 現況

- ・ 唐破風（前）の金箔・漆の剥離が著しい。提灯脱着などの際に手で触ることが一因と考えられる。唐破風（後）の剥離はさほど進んでいない（寺内町）。
- ・ 昭和 57 年度の修理によって金箔押しと朱塗りの配色が一部旧来と逆になった（寺内町）。

旧来（昭和 57 年度以前）



現況



昭和 50 年代（昭和 57 年の塗り直しの前）



令和 8 年

- ・ 国庫補助事業化を待つと 20 年先（現時点の保存修理計画では寺内町の次回事業化は令和 28 年度の予定）の話になるため町内負担（+市の単独補助の一部を活用）による修理を検討したい。金額によっては複数年に分割発注することも検討する（寺内町）。

- ・ 対応（案）

- ・ 以下の３案について塗師屋に見積（工法と工程を記載したもの）を依頼し、金額と内容に基づいて方針を検討する（岩田委員）。
 - ①漆と箔を全て剥がして塗り直す。
 - ②現時点で剥離している部分だけを応急補修し、次の本格的な修理の際に全修理する。
 - ③現在の状態で全体に上から塗り重ね（＋箔押し）する。
- ・ 塗師屋への見積依頼に際して、現在の塗りと箔がここまで剥離した主な原因（手で触ったからかそもそもの塗りが良くなかったからか）を質問してみる（岩田委員）。

中本町車山「西王母」



(1) 文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (中本町)	犬山市内 (中本町)	H18.3.15.	中本町懸装幕 (水引幕復元新調)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度 (自費事業を含む)

天保 04 年 (1833)	からくり人形修復	
天保 11 年 (1840)	車山修復	
慶応 03 年 (1867)	下山幕新調	←今回復元新調中の水引幕
明治 35 年 (1902)	唐子人形修理	
大正 11 年 (1922)	中幕新調	
昭和 47 年 (1972)	下山柱復元新調	< 県費補助事業 >
昭和 50 年 (1975)	上山・中山修理	< 県費補助事業 >
平成 03 年 (1991)	車山構造外装修理	< 県費補助事業 >
平成 13 年 (2001)	水引幕修理	←今回復元新調中の水引幕
平成 14 年 (2002)	からくり人形復元新調	< 県費補助事業 >
平成 20 年 (2008)	梶棒復元新調	< 県費補助事業 >
平成 27 年 (2015)	水引幕修理 (網掛け保護)	←今回復元新調中の水引幕
令和 06 年 (2024)	水引幕復元新調 (右面)	< 国庫補助事業 >

ハ. 復元新調する幕の現在 (修理前) の状況

中本町の車山「西王母」に懸装される現用の水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕 (前後左右各 1 面)」は慶応 3 年製作と伝えられ、図柄や製作仕様からさらに幾分古い時期のものである可能性も考えられる。製作時以来の経年変化によって相当な損傷が見られたことから、平成 13 年に全面的な綴じ直しの修理、平成 27 年には損傷部分を覆う網掛け刺繍による保護措置が行われている。現在、幕全体にわたり刺繍糸の剥落や綴じ糸の欠損などが進んでいるが、再度の修復は不可能な状態であり、早期に新調する必要がある。

(2) 事業の内容

イ. 概要

修理内容 (予定)

令和 6 年度

- ・水引幕 (右面) 1 面の復元新調
- ・水引幕刺繍内の金具 (水引幕 4 面分) の復元新調

令和 7 年度

- ・水引幕（前後面）2 面の復元新調

令和 8 年度

- ・水引幕（左面）1 面の復元新調
- ・水引幕天部の現用鍔金具（水引幕 4 面分）のクリーニングと調整

工期

令和 6 年 4 月～令和 9 年 3 月（予定）

請負業者及び契約金額

令和 6 年度

㈱龍村美術織物 金 14,828,000 円（契約済）

令和 7 年度

㈱龍村美術織物 金 18,194,000 円（契約済）

令和 8 年度

㈱龍村美術織物 金 12,738,000 円（契約済）

ロ. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会です承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（中本町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

中本町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会委員長）※R6 監修者（6 月以降）

藤井健三氏（犬山祭伝承保存委員会委員） ※R6, R7, R8 監修者

久保智康氏（犬山祭伝承保存委員会委員） ※R6 監修者（6 月迄）

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

ハ. 工事仕様

原則として現在の水引幕の仕様（素材、技法、寸法等）を踏襲して新調する。
詳細は別添仕様案参照。

ニ. その他

水引幕の復元新調後、現在の水引幕一式は保存する。

R7



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

前面

製作時以来の長年にわたる経年変化によって著しく損傷していたため、平成 13 年に全面的な修理、平成 27 年に網掛け刺繍による保護措置を行っている。修理によって外観が損なわれているうえ、今後の使用にも耐えない状態となっている。

R7



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

後面

前幕に同じ。

R8

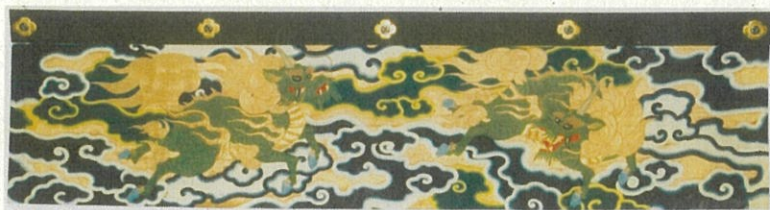


水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

左面（進行方向向かって左）

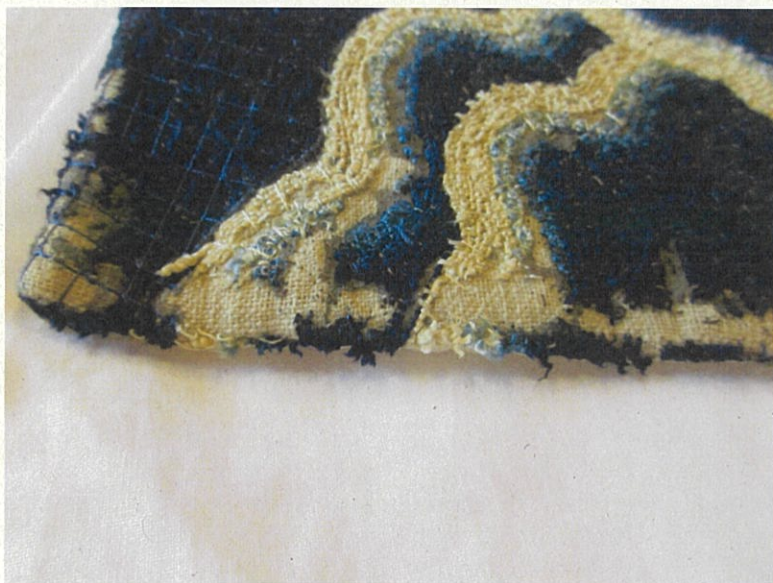
前幕に同じ。

R6



水引幕（金地瑞雲麒麟文様刺繍幕）

右面（進行方向向かって右）
前幕に同じ。



水引幕細部

平成 13 年の修理、平成 27 年の保護措置以後も幕の損傷が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繍糸の劣化、剥落、欠損が見られる。



水引幕細部

綴じ糸の欠損による刺繍糸の剥落が進んでいる。

※水引幕 4 面とも、広範囲にわたって刺繍糸の劣化、剥落、欠損が見られる。



R6

水引幕刺繍内の金具

麒麟の黒目が4面で計12個、白目が4面で計12個、牙が4面で計6個付いている。原品を保存し、新調幕用の金具を復元新調する。

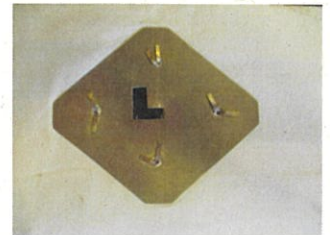


R8

水引幕天部の木瓜紋鍔金具

4面で計18個付いている。原品をクリーニングし、新調幕で再用する。

裏座金



寺内町車山「老松」



(1) 補助事業に係る文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (寺内町)	犬山市内 (寺内町)	H18.3.15.	寺内町老松車 (車輪の復元新調等)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度 (自費事業を含む)

文化 12 年 (1815)	赤幕新調	
文政 13 年 (1830)	上山改修工事 (三層の車山となる)	
弘化 04 年 (1847)	からくり人形製作	
嘉永 07 年 (1854)	車輪新調	←今回復元新調中の車輪
元治 01 年 (1864)	水引幕新調	
大正 05 年 (1916)	中幕新調	
昭和 11 年 (1936)	赤幕新調	
昭和 47 年 (1975)	からくり人形修理 < 県費補助事業 >	
昭和 57 年 (1982)	車山漆箔修理工事等 < 県費補助事業 >	
昭和 58 年 (1983)	中幕新調	
平成 05 年 (1993)	夜山用中幕新調	
平成 08 年 (1996)	車輪修理	←今回復元新調中の車輪
平成 09 年 (1997)	からくり人形修理 < 県費補助事業 >	
平成 13 年 (2001)	芯棒・六本柱復元新調 < 県費補助事業 >	
平成 17 年 (2005)	梶棒復元新調 < 県費補助事業 >	
平成 22 年 (2010)	芯棒・大引・中大引復元新調 < 国庫補助事業 >	
平成 22・23 年 (2010・11)	水引幕復元新調 < 国庫補助事業 >	

ハ. 現在 (修理前) の状況

寺内町の車山「老松」の車輪は嘉永 7 年 (1854) に製作されたものであり、170 年以上にわたる使用によって真円形であった車輪が楕円形に変容している。特に左前輪では長径と短径の差が大きく、それが他の車輪との不調和をもたらして、押しても止まってしまう場合があるなど運行に支障を来している。楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物を留めるビスの頭が取れている。外周の状態も極めて悪く、傍方向へは材を打ち足すことが可能であるが木口方向には足せないため、全体として円を相当小さくする以外に真円形の車輪に戻すことが不可能である。見付面にも割れが多数見られる。消耗を伴う足廻り部材としては、すでに耐用の限界を超えている。車輪は安全な運行の要であり、早期の復元新調を必要としている。

(2) 補助事業の内容

イ. 概要

修理内容

- ・車輪一式の復元新調
- ・芯棒包み金物一式の修理調整

工期

令和7年4月～令和8年3月

請負業者及び契約金額

(有)八野大工 金 7,480,000 円 (契約済)

ロ. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会です承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（寺内町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

寺内町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会）

岩田敏也氏（犬山祭伝承保存委員会） ※監修者

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

ハ. 工事仕様

原則として現在の車輪の仕様（材料、寸法、構造、形式、工法等）を踏襲して新調する。
詳細は別添仕様案参照。

ニ. その他

車輪の復元新調後、現在の車輪一式は保存する。

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

車輪が楕円形になっている（特に左前輪で顕著）

4 輪とも長径と短径に差があり、運行に支障をきたしている（押しても止まってしまうことがある）



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

外周の状態が非常に悪い



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

外周の状態が非常に悪い

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

芯棒包み金物

左：木口包金具

右：筒金具

筒金具と木口包金具が接合されていないため芯棒が元折れしたときに鉄部の応力が不安である



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

楕円形の車輪ががたがたと揺れ、輪の内側が芯棒に接触するため芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れてくる



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

芯棒包み金物（筒金具）を留めるビスの頭が取れている

寺内町車山の車輪 現況（修理前）写真



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

見付面にも割れが目立つ



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

見付面の接地付近部分の割損が多い



寺内町車山の車輪（計 4 輪）

見付面の接地付近部分の割損が多い

犬山祭 中本町西王母 水引幕復元新調 仕様書

原幕をもとに、現在の技術を駆使し、素材も含め可能な限り原品に近い復元を行う。
また、各工程においても万全な管理体制のもとに製作を行う。

水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」(左面)

表地(本紙)裂 総刺繍

- | | | |
|------|----------------------|--|
| ① 技法 | 地場: | 本金(丸金糸)の折り返し駒詰め。 |
| | 麒麟: | 絹糸による唐縫り・撚り金糸の駒詰め。
部分的に紙縫り・ワタを用いた盛り上げ。 |
| | 髭: | 巻き立て刺繍。 |
| | 瑞雲: | 絹糸による唐縫りの駒縫い。 |
| ② 素材 | 繡糸 | 正絹
本金糸 |
| | 綴じ糸 | 正絹 |
| | 目・牙 | 別紙「中本町水引幕(4枚分)金具復元新調仕様書」の通り
・黒目:銅(厚0.8mm)・黒漆焼付・割足付 12個
・白目:銅(厚0.8mm)・水銀箔鍍銀(中央穴有) 12個
・裏座:真鍮(厚0.8mm) 12個

・牙:洋白(厚0.7mm)・割足2箇所付 6個
・裏座:真鍮(厚0.8mm) 6個

金具保護の為、ベンゾトリアゾールをエタノールで希釈して塗布する。 |
| ③ 色数 | 19色(本金糸含) | |
| ④ 染料 | 主として酸性染料・含金反応染料(堅牢染) | |

上辺部裂・覆輪裂(前後左右幕共通・下記の項目含)

黒羅紗 1.4mm

上辺部・吊り板 白木平板(桧)

天部の鍔金具 5個 原品再利用 (前後右面同様)

芯地 綿布

裏裂 麻

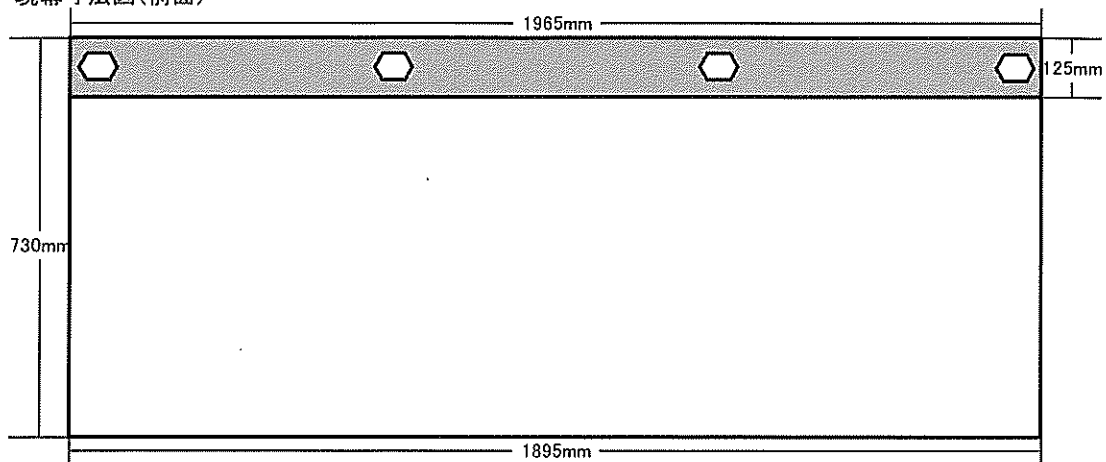
仕立て ① 規格寸法 外寸 約 (H) 745 × (W) 2830 (mm)

詳細は車山本体への取付状態等により調整予定

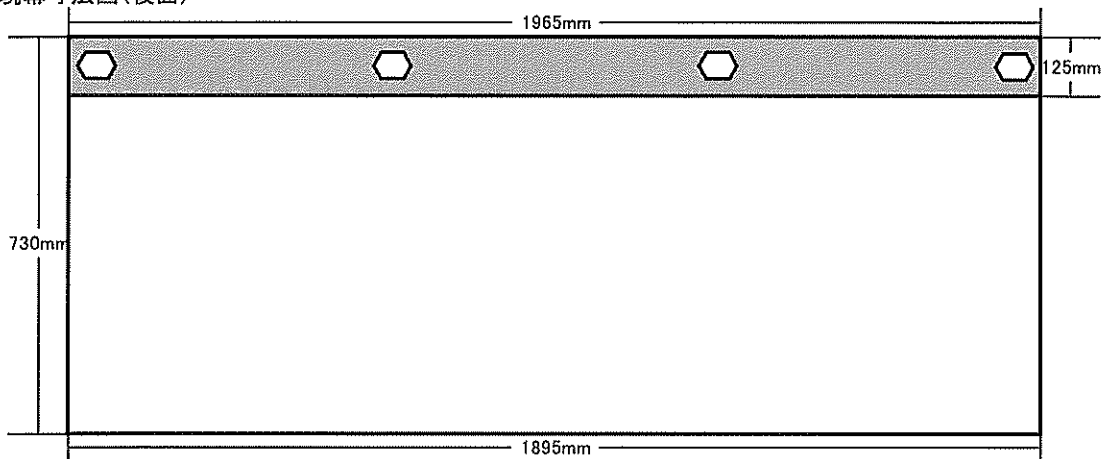
② 縫製 縫製及び仕立ては原幕仕様に準じて、巡行に耐えられる堅牢なる仕立てを行う。

中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」寸法図

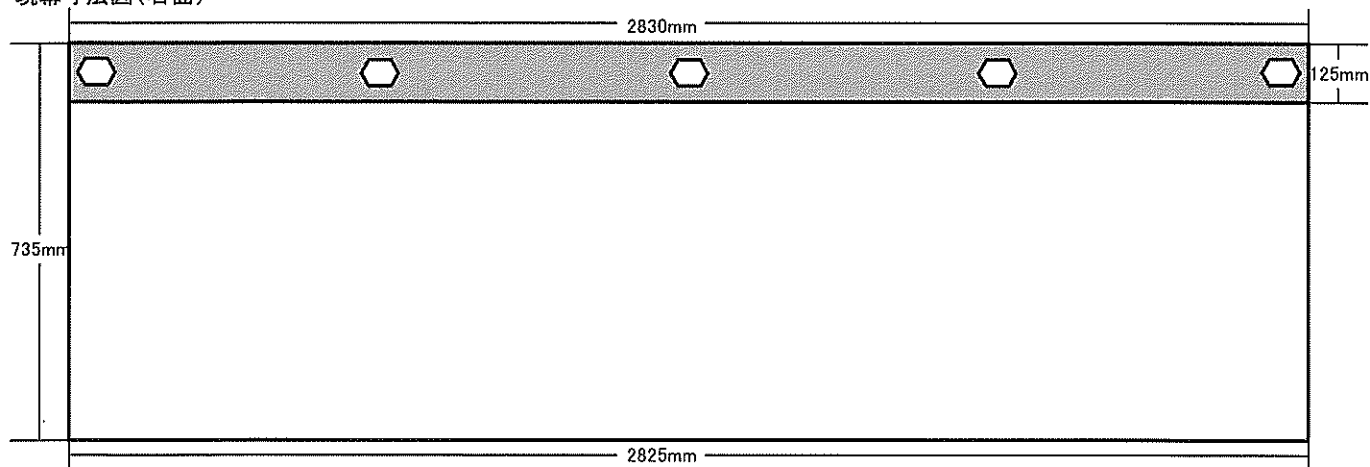
現幕寸法図(前面)



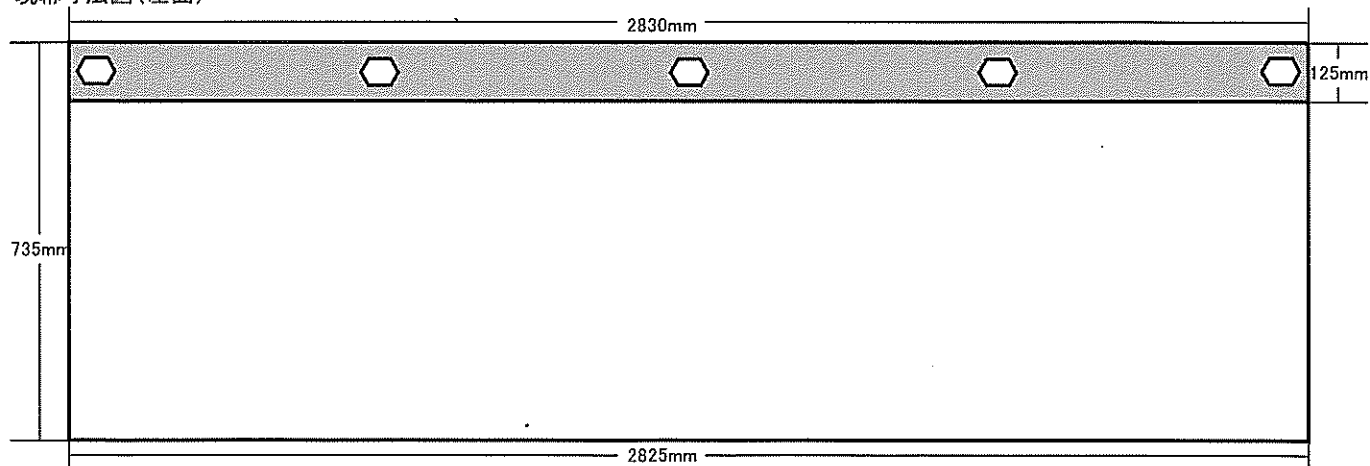
現幕寸法図(後面)



現幕寸法図(右面)

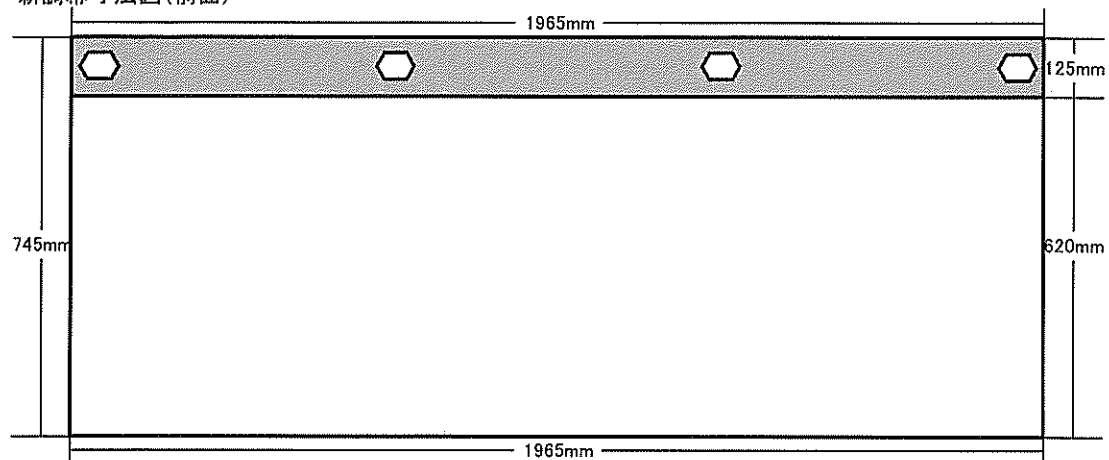


現幕寸法図(左面)

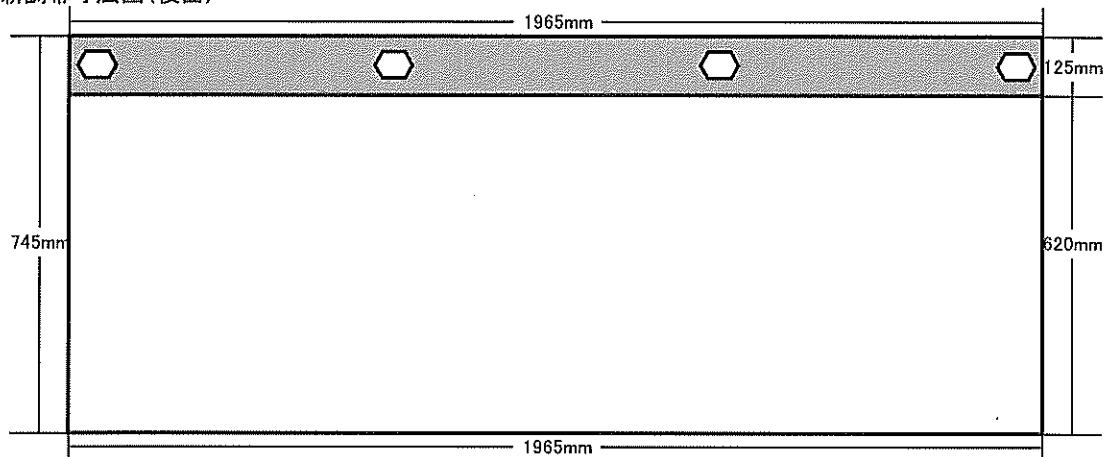


中本町水引幕「金地瑞雲麒麟文様刺繍幕」寸法図(案)

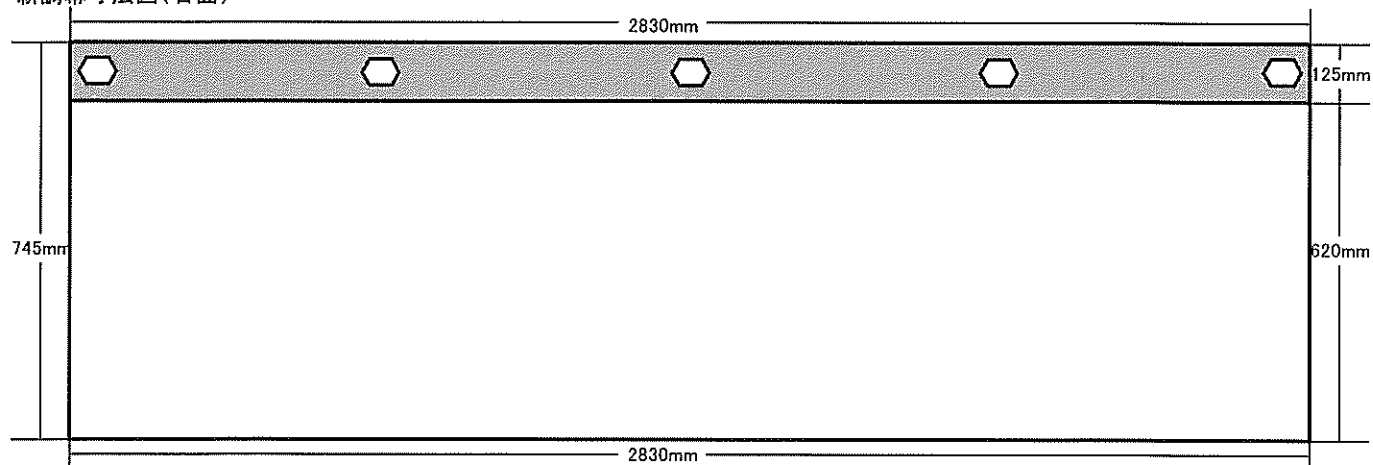
新調幕寸法図(前面)



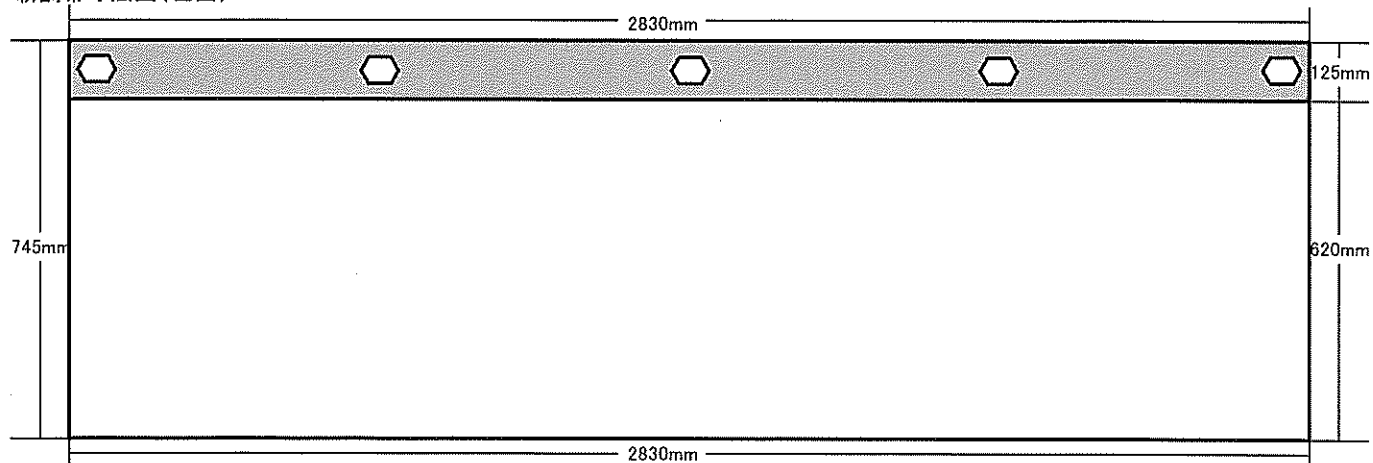
新調幕寸法図(後面)



新調幕寸法図(右面)



新調幕寸法図(左面)



5. 工程表 (中本町水引幕復元新調)

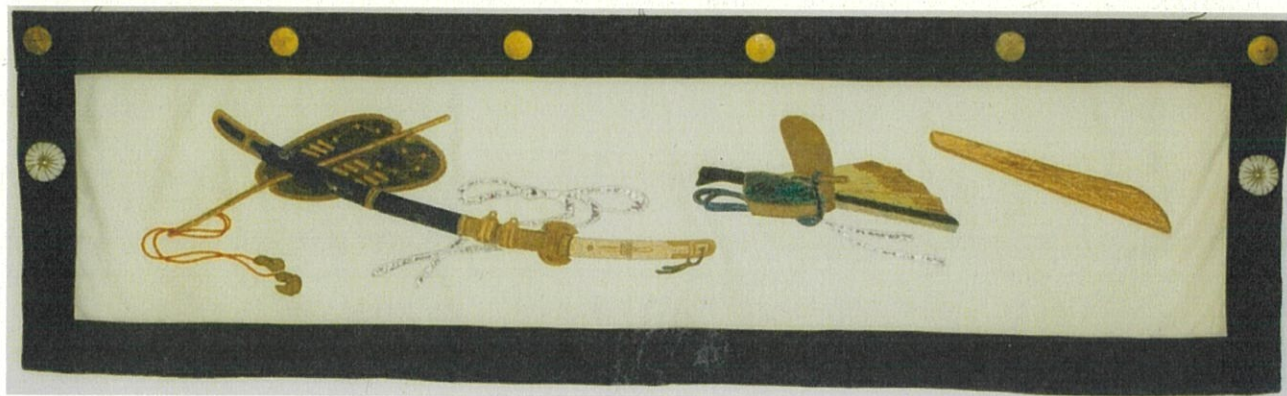
事業名	重無民 犬山祭の車山行事 民俗文化財伝承・活用等事業												期間	(当該年度) 交付決定後着手～令和9年3月31日完了 (全体計画) 令和6年4月11日着手～令和9年3月31日完了											
	令和6年度				令和7年度				令和8年度																
施工 部 目	全事業に 対する比	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
水引幕 (側面1枚)																									
原品調査	1%																								
図案	2%																								
下絵	7%																								
糸準備	2%																								
配色	2%																								
染織	2%																								
試作	5%																								
本品刺繍	66%																								
刺繍部材 (金具) 幕4枚分																									
試作	1%																								
製作	8%																								
吊り板 (幕1枚分)	1%																								
仕立て	2%																								
修理事務	1%																								
	100%																								
水引幕 (前後面各1枚)																									
原品調査	1%																								
図案	2%																								
下絵	8%																								
糸準備	2%																								
配色	2%																								
染織	2%																								
本品刺繍 (後面)	40%																								
本品刺繍 (前面)	40%																								
吊り板 (幕2枚分)	1%																								
仕立て	1%																								
修理事務	1%																								
	100%																								

施 工 部 目	全事業に 対する比	令和6年度												令和7年度												令和8年度											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
水引幕 (側面1枚)																																					
原品調査	1%																																				
図案	2%																																				
下絵	7%																																				
糸準備	2%																																				
配色	2%																																				
染織	2%																																				
本品刺繍	80%																																				
鎗金具 (帯4枚分)																																					
洗い	1%																																				
吊り板 (帯1枚分)	1%																																				
仕立て	1%																																				
修理事務	1%																																				
	100%																																				

名栗町車山「絳英」



犬山祭名栗町水引幕（進行方向を見て右の面）



犬山祭名栗町水引幕（進行方向を見て左の面）



犬山祭名栗町水引幕（前面）



犬山祭名栗町水引幕（後面）





(1) 文化財の概要

イ. 名称等

名称	所在地	指定年月日	備考
犬山祭の車山行事 (名栗町)	犬山市内 (名栗町)	H18.3.15.	名栗町懸装幕 (水引幕復元新調)

ロ. 過去における事業の内容とその実施年度 (自費事業を含む)

元禄 02 年 (1689)	車山・からくり人形 (布袋和尚) 新調
文政 05 年 (1822)	下山・車輪作り替え
文政 10 年 (1827)	水引幕作り替え
天保 01 年 (1830)	上幕作り替え
天保 04 年 (1833)	上山・中山作り替え
嘉永 07 年 (1854)	下山修復
明治 02 年 (1869)	からくり人形 (菅原伝授手習鑑) 新調
明治 08 年 (1875)	水引幕新調 ←今回復元新調予定の水引幕
明治 33 年 (1900)	中幕新調
昭和 32 年 (1957)	中幕新調
昭和 50 年 (1975)	下山張出・車輪修理 <県費補助事業>
昭和 57 年 (1982)	車山全面修復 <県費補助事業>
平成 05 年 (1993)	車輪修理・車軸復元新調 <県費補助事業>
平成 28 年 (2016)	車輪修理 <国庫補助事業>
平成 30 年 (2018)	芯棒等修理 <国庫補助事業>

ハ. 復元新調する幕の現在 (修理前) の状況

名栗町の車山「絳英」に懸装される現用の水引幕「白地武士持物文様羅紗刺繍幕 (前後左右各 1 面)」は明治 8 年製の旧水引幕から刺繍部を切り抜き、新しい羅紗地に切り付け縫い等をして新幕に仕立てたものである。刺繍部は経年による損傷や汚れなど劣化が著しい。幕全面にわたって褪色、綴じ糸切れと剥離、破れや欠失部など多くの傷みが生じており、それらを修理した形跡が見られる。明治 8 年当初の幕は卓越した技術で製作されたものであったことがうかがえるが、それをやや雑な修理で対処したのが現幕であり、当初の高度で多種多様な繡技を損なっている。現幕はすでに使用の限界を超えた状態であり、再度の修理も不可能である。犬山祭を適切なかたちで後世へ伝えるために新調が必要である。

(2) 事業の内容

イ. 概要

修理内容（予定）

令和 9 年度

- ・水引幕 2 面（後面・左面）の復元新調（仕立てを除く）
- ・水引幕用飾り房（4 本）の復元新調

令和 10 年度

- ・水引幕 2 面（前面・右面）の復元新調（4 面分の仕立てと懸装用の吊り板・吊り金具等付属品を含む）
- ・水引幕銚金具（4 面分）の復元新調

工期

令和 9 年 4 月～令和 11 年 3 月（予定）

請負業者及び契約金額

令和 9 年度

— 金 8,978,200 円（見込）

令和 10 年度

— 金 8,951,800 円（見込）

ロ. 工事事務

- ・犬山祭伝承保存委員会です承された修理方針に基づき、犬山祭の車山行事（名栗町）修理委員会の監修のもと、適切に事業を実施する。

〔修理委員会の構成〕

名栗町代表者

鬼頭秀明氏（犬山祭伝承保存委員会委員長）

藤井健三氏（犬山祭伝承保存委員会委員） ※監修者

- ・国庫補助事業の特別会計を設け、帳簿を作成し、適切に予算を執行する。
- ・詳細な修理記録を作成する。

ハ. 工事仕様

原則として現在の水引幕の仕様（素材、技法、寸法等）を踏襲して新調する。
詳細は別添仕様案参照。

ニ. その他

水引幕復元新調後、現用の水引幕一式は保存する。

■犬山祭・名栗町『絳英』水引幕、復元新調に向けての調査報告（概要）。

提出；2026年（令和8年）1月13日（火）

●調査の概要。

- ・調査の対象 …犬山祭名栗町『絳英』の現用「水引幕」4面。
- ・調査の目的 …現用幕の経年による消耗に従い、復元新調を基本とした新幕の調製。
- ・調査の日時 …2025年（令和7年）12月18日（木）。
- ・調査の場所 …名栗町公民館（犬山市大字犬山字南古券13番地）。
- ・調査の担当 …犬山祭伝承保存委員会 委員 藤井健三。

●修理事業の対象とする幕について（概要）。

・名栗町「絳英」の下山軒下に前面・左面・右面・後面の四方に別れて懸装される現用水引幕の4枚がある。この4枚の水引幕の製作年は不明だが、幕の図は朝廷の官吏が儀礼に際して身に着ける「冠、笏、太刀、中啓、軍扇」で、それらに見る種類をうまく組み合わせて4面の幕の図柄に構成して作られている。水引幕は本来は一枚物の布を山車に周回させて懸ける幕で、それを扱い易さと豪華に装うべく対応させて四方に分けて懸ける幕として作られるようになったと思われる。その意を受けてか本幕も4枚一組の幕として製作され、山車に合わせて前後と左右面の幕長が異なるも4枚共に図柄と仕様を4枚で一体と成る可く考慮が窺える幕である。幕は上下左右の四片の縁部分を黒色羅紗で囲った額縁仕様に作り、額縁内は白色羅紗裂を用いてそこに先述の朝廷の官吏が身に着ける用具を図柄として著して刺繍をしている。

・ところで現在の幕を少し離れた位置から見るとよく形の整った幕に見え、近寄ってみると黒色の額縁と幕の鏡部の白色羅紗に褪色や汚れがあるものの、幕の形も崩れていなくてよく保たれている。しかしさらに近づいて刺繍部分を注視すると、各面に施された刺繍の図柄は明瞭さに劣っていて刺繍は全体が経年による損傷や汚れなど劣化が著しく窺える。褪色や刺繍の綴じ糸切れに剥離、そして破れや欠失部など多くの難が有り、そしてそれらを修繕した形跡が確認できる。それに加えて白色羅紗裂へ直に刺繍して作られているはずが、図柄の全てに約5mm程の巾で幕の白色羅紗とは異なる別の白色羅紗裂があるのが見られ、刺繍をした古い裂地を新しい白色羅紗裂幕面に乗せて貼付されているのが解る。つまり本幕は損傷が顕著になって使用に絶え難くなった時の幕の修復方法として、刺繍の損傷部分を先ず綴じ糸で押さえ直して修理を行い、その後図柄に添って旧幕面の裂と共に切り抜き、新しく白色羅紗の上に置いて接着および切り付け縫い（アップリケ）をして新幕に仕立てて復元をしたものなのを理解できる。このように現用の幕は刺繍の部分に大きく問題を抱かえながらも暫時の幕の修理をして今まで活用されてきたのがいえる。一般的には暫定的な修理として行われる方法ではあるが、幕面と刺繍の部分に格差がある修理方法だといえる。しかし修理をした刺繍部分を新しい幕面に置いても見た目は堪えられない状態でなく、立派に図様として役割を果たしているかに見えるのには驚かされる。つまり当初に製作された刺繍作品が如何に卓越した技術で作られたものだったかを語っており、かなりの損傷を見るに至っている作品であるのに拘らず、やや雑な修理対処で成し得たことに驚かされる。最初の幕製作がよほどに高い刺繍技術だったことが考えられ、それは幕の収納箱の記載からも理

解できよう。

・水引幕を収納する箱の蓋裏に「記／明治八年 亥旧八月／組長 土岐清七／警固（人名略）／上山係（同）／下山係（同）／当番（同）／水引買上井縫記／白羅紗 名古屋 大丸屋／黒羅紗 同所 伊藤軒／下絵 当初 堀野氏／縫師名古屋 松阪屋／鋳師 当初中切 鋳屋／仕立て師 同所三文字屋／（下略）」、身の横に「水引箱」、他方の身横に「明治八年 亥八年吉日」とあり、最初の幕の製作は明治8年であり、既に150年を経過して幕は修理当時において相当に経年劣化等によって損傷していたことが知れる。現今の幕面の黒羅紗の額縁と白羅紗の幕鏡部の状態の良いこと、そして刺繍部分の図柄の傷みが大きいことの見掛けの違いから修理は近年なのがいえよう。その修理時期については町に聞き取りをするも残念ながら不明。

・名栗町が所有する現用赤幕の前面も、昭和9年に製作された旧幕から町名文字の刺繍部分を切り抜いて新しい緋羅紗地の上に切り付け刺繍をして修理されており、そうした仕事の幕がある例からして4枚の水引幕も同時期に加工されたとも考えられるが、その辺りについての資料は全く不明。水引幕の鋳り金具、刺繍幕の太刀の鞘、扇子の図柄に梅花を多く使って表現をしているのが知れる。「絳英」の上山に載る菅原道真の人形に関わって梅花模様が多く用いられていると聞く。

●調査から見た幕の概要。

◆前面水引幕について。

・大概に水引幕の修理技法と技術については前の通りだが、前面の幕は「機高立纓^{いすだかりゆうえい}の冠、毛抜透しの太刀、中啓^{ちゅうけい}、笏^{しやく}、軍扇^{ぐんせん}」の図柄が低い盛り上げをした繡技で行われ、多種の糸遣いと多様な繡技を併用して日本画風の絵画表現を精緻な繡技で著している。ただ刺繍の損傷度合いからして修理を経た現状と雖も過去の良い刺繍技術の再現は難しい。幕面の四辺縁に作った黒羅紗の額縁上辺5か所に低い円柱形の鋳り金具を付け、金具の表面に梅花文様と魚子の鑿彫りをして箔鍍金加工をしている。また額縁の左右辺には白色厚手の絹地に綿を高く包んで菊座を縫い着け、紐穴を設けて隣り合う幕を繋いで房飾りを垂れる。

○前面幕の概形と寸法（概寸）。

・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦： 758～760mm× 横： 1833～1860mm。

内寸（額縁内寸法）…縦： 506～510mm× 横： 1603～1632mm。

（詳細は添付図を参照）。

*ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁

・平織黒色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工） 織密度、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部（刺繍基布）

・平織白色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工） 織密度、生地厚の計測不可。

○幕裏面生地

・綾織白色木綿布 …10番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繍加工

・「磯高立纓の冠」、「毛抜透しの太刀」、「中啓」、「笏」、「軍扇」の図柄は共に白羅紗生地に下絵を貼り、紙撚りを止めて和紙また綿を薄く肉入れし、そこに色と太さで選んだ丸金糸および銀糸を片駒か両駒遣いで地引繡いをして綴じ無し、綴じ糸繡いをする。また色糸は原糸の選択から合糸、撚りの強弱や太細、諸撚りまた唐撚り糸を主に用い、纏い繡いやチャラ繡い、網掛け繡い、渡し繡い、組紐繡いなどの繡技を加えて技術を尽くして細部に至るまで技巧を尽くしている。実に多種多様な繡技を尽くして製作をしている。さらに美しく糸が揃って繡われている様子は他に類を見ない。ただしこうした技術を殆ど見る影もなく損傷してしまっており、加えて修理で大きく変容してしまっている。

＊技法の詳細については多種多様のため、個々の部所についての記述を省くが、実際の製作時には本歌の刺繡を緻密に探って繡技を選定して指示をする必要があるだろう。

○房飾り用菊形座。

・平地変り地絹織物（地緯に太細糸を交替に用いた織物）を使って高く綿で肉入れをして円座を作り、それに丸金糸両駒遣いの綴じ繡いをして花卉の筋を表現する。

○懸装鎗金具。

・円柱型。金具上面に梅花と魚子紋の彫金を施す。金色の剥がれ状況から見て、着彩は金箔の箔鍍金技法が推される。裏面座金は銅素地の円形薄板。

◆左面の幕について。

・幕の製作仕様は前面水引幕と全く同じだが、刺繡の図柄は「磯高結^{いそだか}び^{えい}纓冠^{いんかん}」「長覆輪^{ながふくりん}兵具飾の太刀（野太刀、^{ひょうじょう}杖の太刀）」、「梅絵の扇子」、「笏」、「軍扇」の図を低く盛り上げをした繡技で、多種の糸遣いに多様な繡技を併用して精緻で絵画的表現をしている。現状の幕の経緯は前面幕に同じ。

○幕の概形と寸法

・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦： 760～769mm× 横： 2625～2644mm。

内寸（額縁内寸法）…縦： 511～517mm× 横： 2376～2406mm。

（詳細は添付図を参照）。

＊ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁裂

・平織黒色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部裂（刺繡基布）

・平織白色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕裏面裂

・綾織白色木綿布 …10番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繡加工

・前面幕の記述に同じ。

○房飾り用菊形座

・前面幕の仕様に同じ。

○懸装鋳金具

- ・前面幕の仕様に同じ。

◆右面の幕について。

・幕の製作仕様は他の水引幕と全く同じだが、刺繍の図柄は「磯高垂纒^{いそだかすいゑい}の冠」「儀杖^{ぎじょう}の飾太刀」、「扇子」、「笏」、「軍扇」の図を低く盛り上げた繡技で、多種の糸遣いと多様な繡技を併用して精緻で絵画的な表現をしている。現状の幕の経緯は前面幕に同じ。

○幕の概形と寸法

- ・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦： 763～767mm× 横： 2645～2662mm。

内寸（額縁内寸法）…縦： 520～521mm× 横： 2405～2422mm。

（詳細は添付図を参照）。

*ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁

- ・平織黒色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部（刺繍基布）

- ・平織白色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕裏面生地

- ・綾織白色木綿布 …10番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繍加工。

- ・前面幕の記述に同じ。

○房飾り用菊形座。

- ・前面幕の仕様に同じ。

○懸装鋳金具。

- ・前面幕の仕様に同じ。

◆後面の幕について。

・幕の製作仕様は他の水引幕と全く同じだが、刺繍の図柄は「磯高巻纒^{いそだかけんゑい}の冠」、「中啓」、「笏」、「儀杖の飾太刀」、「軍扇」の図を低く盛り上げた繡技で、多種の糸遣いと多様な繡技を併用して精緻で絵画的な刺繍表現をしている。現状の幕の経緯は前面幕に同じ。

○幕の概形と寸法

- ・形状…横長の方形。

外寸（額縁外寸法）…縦： 750～763mm× 横： 1780～1855mm。

内寸（額縁内寸法）…縦： 512～513mm× 横： 1553～1626mm。

（詳細は添付図を参照）。

*ただし製作の前に再度の採寸と山車側の懸装仕様についての確認と検討が必要。

○幕表面額縁

- ・平織黒色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕表面鏡部（刺繍基布）

- ・平織白色羅紗 …平組織毛織物（起毛処理加工）、生地厚の計測不可。

○幕裏面生地

- ・綾織白色木綿布 …10番綾織木綿布（品名；葛城）。

○刺繍加工。

- ・前面幕の記述に同じ。

○房飾り用菊形座。

- ・前面幕の仕様に同じ。

○懸装鋳金具。

- ・前面幕の仕様に同じ。

●調査の結果から。

◆飾り房（隅小房）について。

・白色総角飾り結び紐に木玉付き二つ撚り小房（4筋）は新調するにこしたことはないが、現用の小房と比して既成の小房を利用することに問題はないと考えられる。

◆当初（多分に江戸末期から明治初期頃）に幕を製作した際の刺繍技法と技術については、図柄の模様を輪郭を際立たせるために紙撚り使いを多用し、また太細の紙撚りの使い分けとそこに薄い綿の肉入れ等をして、その上へ諸撚り糸や唐撚り糸を使った両駒遣いまた片駒遣いの綴じ糸刺繍を行い、刺繍基布に直繡い刺繍して作品を作っているのが大方にいえ。また図様を立体的そして写實的に仕上げるために糸の種類と太さを多用に替えて作業を行い実物に近い表現を成そうと試みているようである。刺繍を重ねて行い、実物の様な表現を演出している個所も随所に見られる。こうした丁寧でかつ表現に拘った刺繍技法は江戸後期に始まって明治期には成立していく。それらの技術がより精密に成って超絶技巧と呼ばれる特殊な刺繍技法を生み出した。日本刺繍が完成したとでもいえる時期の作品である。ただそうした外見は使用と経年による経緯とその後の修理で探ることさえできなくなった状態だといえる。こうした刺繍技法と技術を理解し、それを行える技術者で製作の対応をされたい。

◆鋸り金具については再利用の検討を含めて、修理および製作の仕様については技術者と相談の上で進められたい。また材質調査についてはデーターの結果は製作の参考に扱うも製作において厳密な対応は必要ないといえる。何故ならば他の染織や漆、木部の分野にあっても材質調査や製作に対応が可能といえども、そこまでに経費を懸けて製作に対応していない。特に染織品の製作にあっては本体と付属の材を含めて経費、時間に関して均衡性を保つ必要がある。

●参考（図柄について）

・笏（しゃく）…束帯着用時に右手に持つ一尺二寸（約36cm）の細長い板で、今は神主などが使用する。正しくは「こつ」と訓むが、骨に通じるのを嫌って長さ「尺」の音を借用。

・太刀（たち）…大概には官吏が帯びる儀杖用の刀剣。

・中啓（ちゅうけい）…半（中）ば啓（ひら）いた意で、儀式用の扇。外側二本の親骨の上端が弓成りに反り、閉じた時も半ば開いているように見える。末広とも。

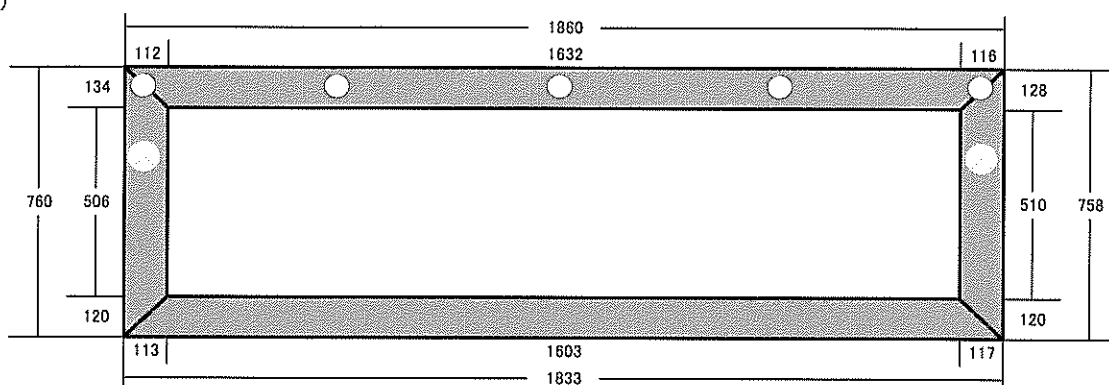
・軍配（ぐんばい）…「軍配うちわ」の略で「団扇」とも、昔に大將が戦の指揮を採るに際して用いた団扇形の道具。「唐扇」とも。

◆本幕を復元新調をする場合にあっては、その製作仕様について委員会および幕所有の町、事務局等で十分に検討を行い、製作仕様の詳細を明確に提示した上で見積もりを実施し、常に製作仕様等に内容の確認をして進めることが望ましい。高密度の仕事内容からして単独の業者が提示する仕様のみで進行することのないように注意が必要。

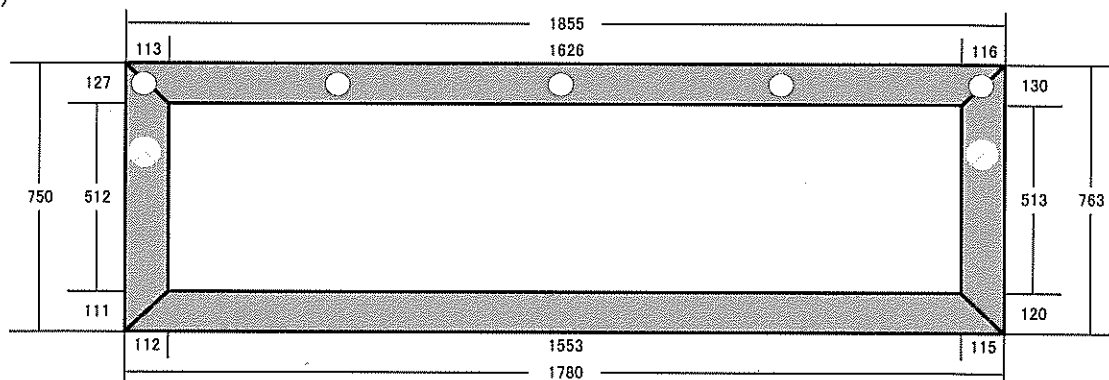
以 上

名栗町水引幕

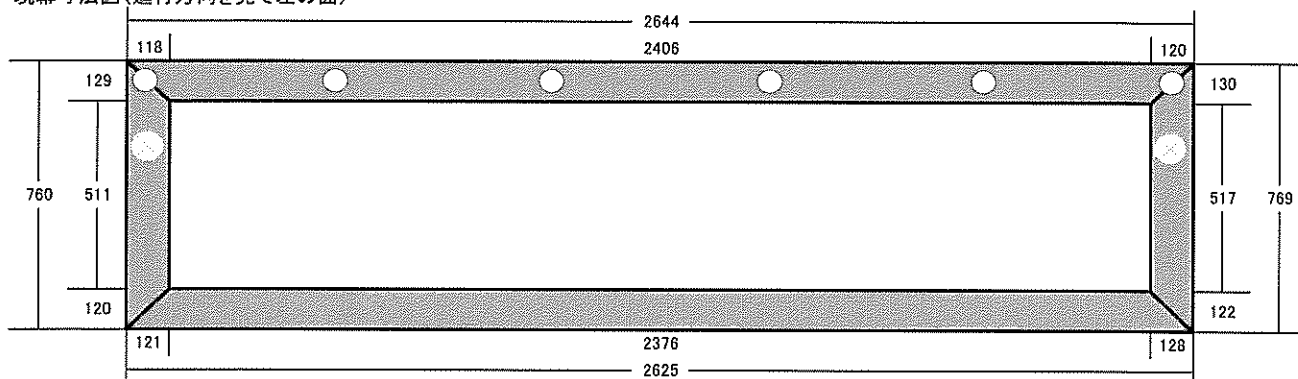
現幕寸法図(前面)



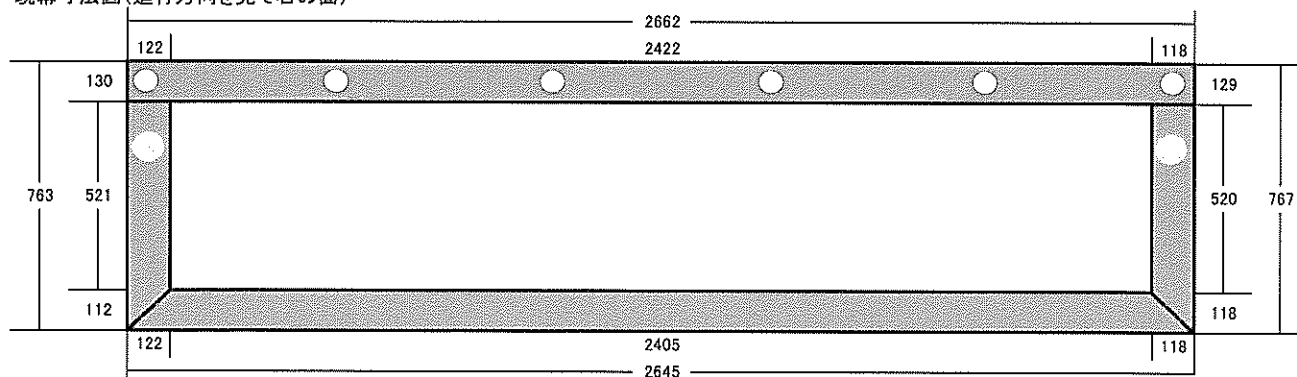
現幕寸法図(後面)



現幕寸法図(進行方向を見て左の面)



現幕寸法図(進行方向を見て右の面)

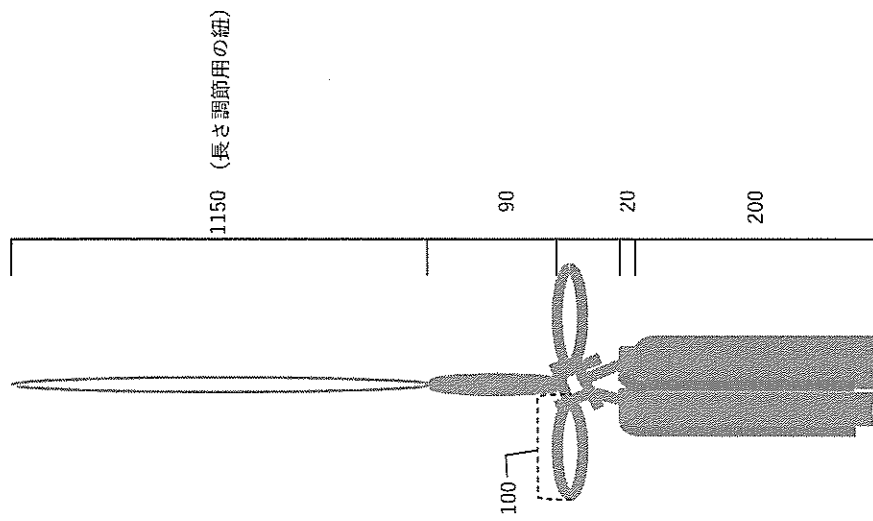


※右面の額縁上辺のみ他面と縫い目が異なる

名栗町

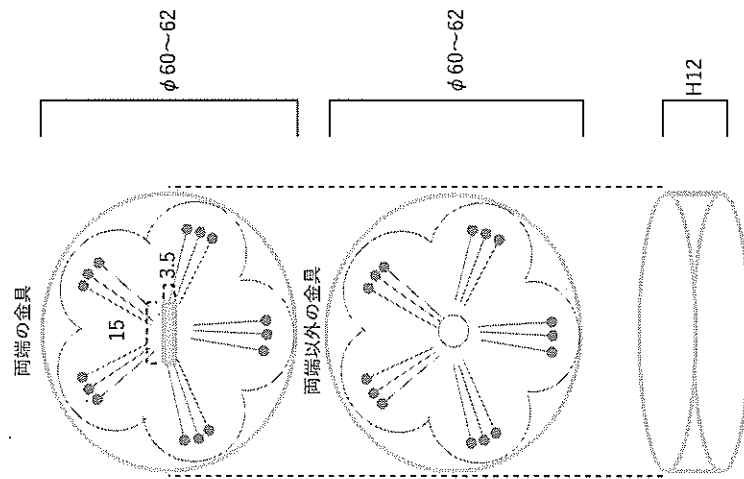
水引幕用現用房 (4本)

(mm)



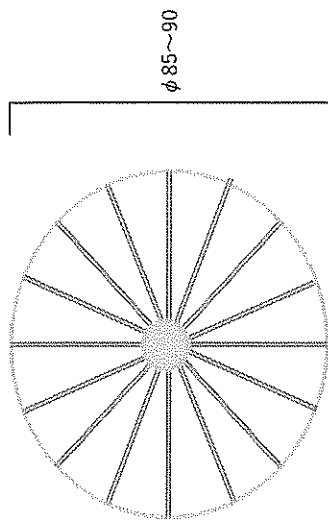
水引幕鍔金具 (計22個)

(mm)

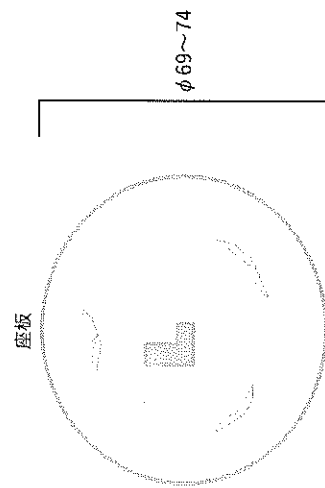


菊座 (計8個)

(mm)



- ・花弁枚数：16～19枚
- ・中央のハトメ金具：外径19mm 内径11mm



染 色 主として金属錯塩染料、酸性染料を使用し、染色堅牢度に特に留意して染色する

飾り房

1. 仕 様 400 mm白正絹 7 寸総角房、同芯Φ9 mm、結び巾 200 mm、
2300 mm吊り紐付き

以 上

製作仕様書（案）

犬山祭名栗町水引幕 復元新調

令和10年度事業（令和9、10年度事業の内）

犬山祭名栗町水引幕の復元新調に当たっては、犬山祭伝承保存委員会及び名栗町修理委員会の監修のもと、元幕調査、デザイン、下絵製作、原料調達、染色、配色、刺繍、仕立加工等すべての工程にわたりそれぞれ留意して高度な技術を発揮し、十分な品質管理のもとに製作する。

水引幕

1. 手 法 切り付け刺繍・直刺繍併用
 （絹糸：平縫い・唐撚り駒縫い・撚り駒縫い・肉入れ縫い等
 金糸：駒縫い・すくい縫い）

2. 寸 法 前面 幅 1860mm × 高 760mm
 右面 幅 2662mm × 高 767mm

※製作前に再度の採寸と車山側の懸装仕様の確認を行って確定する

3. 製作仕様

基 布 白羅紗
額 縁 黒羅紗

刺繍素材 絹 糸 21デニールの金糸を適宜に合糸し、刺繍部位によって、
 撚り糸（片撚り・唐撚り・諸撚り・駒撚りなど）を
 使い分ける

本金糸 4掛、6掛、8掛、14掛の本金糸
 （1号色、4号色、仲色）

紙縫り 図柄の輪郭の肉入れ

刺繍技法 平縫い、駒縫い、すくい縫い、刺し縫い等

染 色 主として金属錯塩染料、酸性染料を使用し、染色堅牢度に特に留意して染色する

鍔 金 具 $\Phi 60 \sim 62$ mm、腰 12 mm、電気金メッキ仕上げ、裏座金割足 3 ヶ所

以 上